

は除き去り、成丈公平に取扱はれる事が肝要で御座います。

一人子は又身體の健康状態を憂ふるの餘りに、思ふ様に斷乎とした處置の出来ない場合がづいぶんある事と存じます。前申述べました三人の中の一入娘が、成績劣等でいつもいつも困り切りますので、保護者と呼ば出して注意を與へますと、母親は「モ一私の言葉の終らぬ前から、兩眼に涙を浮べて、學校の板の間にヒタと座し、まことに私は子を澤山持ちましたか、皆死亡しました、モ一彼の娘ばかりなのでとあとは言ふ事が出来ないのです。私も只やさしく慰めていたはり、少しづつでも進む様にと告げる外彼の母は聞き勇氣はないのであります。

之を思ひますれば、其の健康状態が餘程教育上の害となるのは瞭然で御座います。此の例の様なのはばかりではなく只健康な子でも、親の身としては常に此の弱點がある事と信じます。ダカラ此の點からいひますれば、一人子は「マ一不幸と申さなければなりません。

しかし體格さへ健全でありますれば、万一を杞憂する念は絶えますまいが、思ひ切つて我儘に陥らぬ様工夫して教化する事が出来るのであります。

## 逝けるナイチンゲール嬢

記 者

今より九十年前即ち千八百二十年五月十二日富裕なる一英國紳士が夫人と共に大陸を漫遊して伊太利のフロレンスに到りける時夫人は月満ちて一女子を生みぬ、依りて地名に因みてフロレンス、ナイチンゲールと名づけたり。

ナイチンゲール嬢は女子として周到なる教育を受け殊に數學、語學に長せりと云ふ。嬢は幼より慈愛の心深く曾つて一犬の跛を引き歩むを見測隱の情に絶へず懇ろにいたはり愛撫せしと云ふ。嬢は裕かなる家庭にありて何事も意の如くなるにも拘らず自ら進んで世の傷病者の友たらむ事を期しぬ。一千八百四十四年嬢は資を齎して大陸に遊

此處彼處に或は病院を訪ひ又は看護制度を視て得る所あり一千八百五十一年には一看護婦としてカイゼルウエル病院に入り看護法に於いて當時歐洲第一と云はれし同院の看護婦長について研究する事一年有半、後歸國してロンドンの一病院を整理す。

一千八百五十四年英佛魯の國交隠かならず、戰雲クリミヤの天を蔽ふ。ロンドンタイムスの特流從軍記者ラッセルが軍隊の疾病と負傷とに困しみ看護不行屈なる爲め悲惨なる死を遊ぐる者續出するを報告するや、嬢は奮然身を提し同年十月時の陸相シドニーハアバート氏に書を寄せ特志家三十七名と共にクリミヤに赴き看護に従事す時に嬢年齢三十有四。

嬢のクリミヤに到るや献身傷病兵の看護に従事し人をして全身愛の權化かと疑はしむ。如何に嬢の傷病者より敬慕せられたるかは傷病兵の嬢を呼ぶに「燈火を持てる貴女」「看護の女王」と云へるを以てその一般を知るを得べし。或る者は感激して「彼の女は天使なり」と叫び他の者は泣い

て嬢の影に接吻せしと云ふ。翌年嬢は過激なる勞働の結果烈しき熱病に犯されしも歸國を肯んせず前後三年英佛兩軍全く戰地を去るに到つて始めて歸國せり。

嬢の郷土に歸るや歡迎の聲耳も聳せんばかりにて長くは「憐なる者は幸なり」との聖句を刻したる十字勳章を賜はり又同時に自由民權を許さるゝ等の特典ありぬ。嬢は英國有志の感謝の爲めに嬢に捧げたる五萬鎊を以て直ちにナイチンゲールホームを設立し今日のトーマス病院の起源をなせり。嬢は身を以つてクリミヤに實例を示してより十年、歐洲の有志は瑞西國ゼネバ市に會し戰地に於ける疾病者負傷者の状態改良を謀り、戰地病院は中立又之に關係するものは戰闘員以外と見做す事に定めたり。嬢は逝けり然れ共五十年前嬢が魁せし事業は今日赤十字の源なりき。

嬢は其後英國陸軍衛生局顧問、英國看護婦會の組織、看護婦養老院の設立等に盡す所あり晩年は専ら印度駐在英國軍隊の衛生状態改良に盡瘁した

り嬢の著書中主なる者を擧ぐれば「病院に關して」看護婦に關して」「印度駐在軍隊の衛生状態」「産科病院に關する意見」「印度に於ける生死」等なり。

嬢は又熱心なる女子選舉權運動者にして「すべて一家の家政を掌る者及び納税者は國家の支出費に對しても發言權を有するの權利あるは自明の原則なり」と唱へ居れり。嬢は數年前より中風症に罹りて一切の訪問客を謝絶しロンドンパークレーンに静養せられしも急に病革まりて長逝の計に接す悲しい哉。

### バイオリンの話

礫々生

西洋音楽に對する趣味は近頃大層普及して參りましていかなる寒村僻地にありましてもオルガンの音やバイオリンの響を聞かない事はないやうになつて參りました。殊に都會にありましては到る所

到る仕々に日本古來の樂器なる三味線や琴の音を壓倒しはバイオリンやオルガンの響が致します。今やバイオリンやオルガンは殆ど中流以上の家庭には欠ぐ可らざるもの、一つとなりました。實にその價は一筋の帯一個の指環よりも廉く然かもオルガン又はバイオリンの家庭に貢獻する所のものは決して些少ではありませぬ。例へば家庭の平和をまし又は個人の趣味をたかめる等誠とに枚擧するにいとまがありません。

ピアノは其の價のあまりに高價なる爲めに重みに上流社會の家庭にのみ限ぎられてある觀が致します。之に反しバイオリンは比較的その價が低廉なるがためその學習法の至難なるにもかゝらずあらゆる方面に流行致して磨ります甚だしきに至つてはバイオリンを逆に持ち寫真をとる人が生ずるに到つてはバイオリンの爲めに泣かなければなりません。餘事は偕ておいてバイオリンは何時頃から出來たかと申しますると西曆三百五十年前伊太利に於て始めてマジニ。ハデサラなど云ふ人が製造した物です。バイオリンにも幾多の變遷が